

三重の文化振興方針（仮称）

（骨子案）

【修正版 10/29現在】

（注意点）

中間案に向けて、県民意見交換会や文化振興拠点部会での意見等を反映しながら、現在、事務局で修正作業をしております。

この骨子案は、10月29日時点の修正版ということをご理解ください。
第3回文化振興拠点部会の資料2として、第2章及び第3章の修正案を提出し、検討いただいたものをもとに、さらに修正、追加を行ったものが、この骨子案（修正版）です。

修正、追加した箇所には、大カッコでくくるか、下線を引いています。

目 次

	ページ
第 1 章 文化振興の考え方	1
(1) 文化とは	
(2) 文化振興の意義・目的	
(3) 文化振興の対象範囲	
(4) 文化振興の施策領域	
(5) 文化振興の推進主体	
第 2 章 三重の文化	3
(1) 三重の文化の特徴	
(2) 三重の文化をめぐる現状と課題	
(3) 今後求められる 4 つのこと	
第 3 章 三重の文化振興の基本方向	8
(1) 基本目標	
(2) 文化振興を進める視点	
(3) 基本目標に向けて進める方向	
第 4 章 重点方針	1 1
取組 1 県民一人ひとりの身近な「場」を拓き、つなぐ	
取組 2 「文化と知的探求の拠点」づくり	
取組 3 施策をつないで取り組む	
取組 4 県全体の文化振興を進めるしくみ、体制へのチャレンジ	

第1章 文化振興の考え方

(1) 文化とは

文化とは、「人間が自然とのかかわりや風土の中で生まれ育ち、身に付けていく立ち居振る舞いや衣食住をはじめとする暮らし、生活様式、価値観など、およそ人間と人間の生活にかかわるすべてのこと」(文化芸術振興基本法)とされています。

文化を創造し、高め、ひろげていくのは、私たち一人ひとりであり、三重に住む私たちが、地域の文化を創造し、つなげ、発展させていくものと考えられます。

(2) 文化振興の意義・目的

(意義)

県民一人ひとりにとって、文化に触れ親しみ、自ら創造し、表現することは、自分をみつめ、他人を思いやり、自分たちの暮らす社会に目をやることにつながります。文化振興により、一人ひとりが成長し、自己実現し、人と人との絆や地域を思う心が育ちます。

文化は、先人から受け継いだ私たちが創造し、発展させていくものです。文化には、私たちの暮らしや考え方、地域の特徴が表れています。文化振興により、一人ひとりの人間力や創造力が高まり、地域のもつポテンシャル(潜在的な力、可能性)が高まり、地域のアイデンティティ(個性)がより明確になり、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的な地域づくりにつながります。

(目的)

三重県は、文化振興を進めることで、県民一人ひとりの成長と自己実現をはかるとともに、地域のポテンシャル(潜在的な力、可能性)を高め、アイデンティティ(個性)を明確にすることを通じて、より豊かで暮らしやすく、魅力ある三重県を築き、発信していくことをめざします。

(3) 文化振興の対象範囲

芸術、文化財、伝統芸能など、「文化芸術振興基本法」に例示されている対象範囲のほか、景観、環境・自然、食文化など暮らしに関わるさまざまな文化など、文化振興の目的にそって文化の範囲を幅広くとらえます。

(4) 文化振興の施策領域

文化振興の目的から、文化振興の取組は、幅広い施策領域のもとで展開される必要があります。

例えば、生涯学習、学術・研究、伝統工芸、産業振興、観光振興、地域づくり、景観づくり、環境保全・自然保全、食文化などに関する施策を総合的に展開させていくことが求められます。

(このため、)文化振興を進めていくためには、総合的な視点に立って、取組を展開していくことが必要です。

(5) 文化振興の推進主体

文化振興を進めていくうえでは、まず一人ひとりが、多様な文化に触れ親しみ、自ら主体的に活動していくことが大切であるとともに、団体として活動を展開し、ひろげ、深め、高めていくことが求められています。一人ひとりや団体の活動を支え、発展させていくためには、行政や企業などの役割が重要です。

県や市町は、県民一人ひとりや団体などの活動を支援するとともに、文化活動とその成果をよりひろげ、高めていくための環境づくりを行うことが必要です。

企業なども、文化の振興が地域や人類の発展に寄与することを踏まえ、文化振興のための取組を一層進めていくことが求められます。

各種団体やNPOは、行政や企業と協力しながら、身近なところで県民の活動を支援する活動を今後もっとひろげていく必要があります。

第2章 三重の文化

今後検討を深めます。

(1) 三重の文化の特徴

三重には、豊かな自然や多様な歴史が育んだ文化資源があります。

日本人の精神文化の源流をなす「伊勢」・「熊野」があり、交通の要衝の地でもある三重は、全国から人が集い、活発な交流が行われる中で、多様な文化を受け入れ、熟成し、新しい文化を育んできました。そして、来訪者に対する「もてなしの心」を育むとともに、俳聖松尾芭蕉、国学者本居宣長、能楽の観阿弥をはじめ、日本人の心を深く見つめてきた多くの文化人を輩出するなど、三重には心を大切にする伝統がいきづいていきます。

また、「美し国(うましくに)」と称された変化に富んだ自然環境や、歴史的な背景の中で、さまざまなまちが分散して発展してきた三重は、各地域でそれぞれ個性ある多様な文化を育むことによって、地域の魅力や価値を高めてきました。

さらに、豊かな物産や地理的条件を生かして活発な産業活動を展開してきた三重は、伊勢商人や御師の活動、伝統工芸の優れた職人の技、自然の力を引き出す農林水産業の工夫など、多彩な知恵と技を育んできました。

「みえの文化力指針(平成18年5月)」から抜粋

三重の文化の大きな特徴は、古代以降、伊勢神宮を結びとする数々の参宮道、熊野古道などを通して全国から多くの人々が訪れ、互いに影響しあうような文化的交流が行われたことです。また、伊勢湾などに形成された湊が東西物流の拠点となり、伊勢商人などは江戸へ進出し、商品だけでなく、同時にさまざまな文化交流も盛んに行われたのではないかと考えられます。遠く離れた地域の文化の足跡が三重に残る一方、三重で育った文化が日本各地にひろがり文化の種を蒔いて新たな文化へと発展していくこともあったと推察できます。このようなことは、他地域には見られない大きな特徴ではないかと考えられます。

本居宣長など多くの著名な人物が三重の地から輩出し、彼らを慕って全国

から人が集まり、芸術や学術などの交流が行われたことも三重の文化の特徴であると考えられます。

(2) 三重の文化をめぐる現状と課題

現在においても、守り発展させてきた魅力的な三重の文化があり、国内外に向けてアピールしています。

県内の文化活動の具体的な状況について記述します。

しかし、文化をめぐる現状から、さまざまな課題が見えてきます。

とりわけ、これまで文化を継承し、発展させてきた地域の潜在的な力が弱くなっているため、人を育む力も弱くなり、これを補う新たな場や取組が必要になっています。

(課題)

地域の文化資産の滅失、流出

近年、景観に対する理解が深まり、町並み保存などが行われる一方で、旧家の建て替えなどに伴い貴重な文化資産が滅失・散逸している状況があります。平成 19 年 3 月にまとめられた三重県資料現況確認調査報告書(三重県生活部)によると、三重県史編さん事業で確認された貴重な資料で処分されたり、所在不明のものが全体の 17.2%を占めました。

伝統文化を担う人材や技術の伝承の危機

人口が減少し、少子高齢化が進展するなかで、県南部や中山間地域などでの過疎化が進み、地域のまつりや行事の中で育成されてきた地域の伝統を受け継ぐ人材が不足し、伝統技術の継承が困難となるなど、伝統文化が消失することが懸念されています。また、都市部でも地域のつながりが希薄になり、過疎地域と同様にさまざまな地域文化の継承が難しくなっています。

家庭や地域等での生活文化の継承の危機

三重県でも、核家族化や単独世帯の増加が進むとともに、ライフスタイルの変化により、食文化などをはじめとする地域の生活文化を伝えていくことが難しくなっています。

インターネットや携帯ゲームの普及などによる子どもたちへの影響
子どもたちの実体験の不足や活字離れが顕著になる一方で、インターネットにより世界の情報が瞬時に入手可能な社会となっています。

外国人住民の増加による地域のグローバル化の進展

三重県では、外国人住民の増加により、平成 17 年の国勢調査によると人口 10 万人あたりの外国人人口が全国で 4 位の多さとなっています。多様な文化を認め合い、誰もが文化にアクセスできる環境を整える文化権やユニバーサルデザインの考え方の浸透が求められています。

(3) 今後求められる 4 つのこと

三重の文化をめぐる現状を踏まえて、これからも三重の文化を保存・継承し、発展させていくために次の 4 つのことが求められます。

誰もが、文化に触れ、親しみ、互いに交流できること

誰もが多様な文化に触れ、親しみ、文化活動に参加できることは、一人ひとりの自己実現と文化の発展につながります。

多様な文化をひろめ、発信すること

多様な文化をひろめ、発信することは、狭い地域のなかで消失しそうになっている地域の伝統文化のよさを再発見したり、他の地域の人によって発展的に引き継がれることなどにつながります。

文化を記録に残して後世に伝えること

文化を記録して後世に伝えることは、文化資産が後世で再発見・再評価され、発展的によみがえることにつながります。

文化を楽しみ、生活やまちづくりに生かしていくこと

文化を楽しみ、生活やまちづくりに生かしていくことは、文化がみんなのものとして社会全般に浸透し、発展していくことや、現在の生活を豊かにすることにつながります。

(「今後求められる4つのこと」に取り組む場としての文化振興拠点)

図書館や博物館等の文化施設は、収蔵収集・保存、普及・学習支援、活動支援、情報発信、交流など多様な機能をもっています。また、地域の公民館なども、県民が学び、文化活動のための場として重要な役割を果たしています。

これらの施設は、誰にでもひろく開かれた場所として、「今後求められる4つのこと」を進めていく場として重要であり、「文化振興の拠点」と言えます。

文化振興拠点について

文化振興拠点は、誰にでも広く開かれた場であり、概ね次のような多様な機能をもっています。

一人ひとりの生涯学習を支援する機能（学習支援）

本人の学習ニーズに対する支援だけでなく、未来に向けて社会の一員として必要な学習内容を提供する。

一人ひとりや団体の文化活動を支援する機能（活動支援）

多様な文化情報を紹介し、ひろめる機能（情報提供）

利用者などに、いかに文化に触れ親しみ、文化活動に参加してもらうかについての企画立案機能（企画立案）

文化活動や人をつなげる機能（コーディネート）

よりレベルの高い拠点活動を行うための機能（調査・研究）

専門性をもった人材を育成する機能（人材育成）

これらの機能は、すべてを均等に備えるということではなく、拠点の目的、特徴等によって優先すべき機能があると考えられます。

三重の文化振興を進めるための拠点として、今後重点的に強化すべき対象として「文化振興拠点」を位置づけます。具体的には、図書館や博物館、公民館などの文化施設や社会教育施設等とします。

これらの施設がもつ「開かれた場所」という要素を重要な拠点の要素ととらえ、人と文化が育まれる豊かなソフトパワーを備えた施設として、運営していくことが必要です。

県民にとっての文化振興拠点

文化振興拠点は、県民にとって、あるときは、文化に触れ、互いに交流しあう楽しい時を過ごす場として、またあるときは、先人のことを知り、過去へ思いを馳せる場として、そしてまたあるときは、様々なことを調べ、課題の解決を助けてもらえる場となります。

文化振興拠点は、誰にでも開かれた、一人ひとりの成長と自己実現や地域を支援する場として重要です。

県民は、文化振興拠点において、学び、活動するなかで、新たな気づき、知識・知恵を得て、より専門性の高い人材、主体性をもって取り組む人材として、拠点の新しい持続的な発展を導きます。

また、地域の文化を記録、研究し、次世代へ発展、継承していくための活動の舞台としても、文化振興拠点は重要な役割を果たします。

とりわけ、図書館、博物館、美術館は、収蔵資料の閲覧機能や展示、調査研究機能などをもつことから、文化の保存、継承、発展に寄与し、県民の文化の接点、知的探求の場となる「文化と知的探求の拠点」として大変重要な役割を果たすと考えられます。

文化の全般的な振興の視点からは、これらの施設に、文化会館、生涯学習センターが加わって、総合的に「文化と知的探求の拠点」としての機能と役割を果たせるようにすることが、県民と地域の文化の発展にとって効果的であると考えられます。このような視点からは、設置が課題となっている公文書館の役割や機能について検討していくことも必要です。

第3章 三重の文化振興の基本方向

今後検討を深めます。

(1) 基本目標

こんな三重の姿をめざします。

文化は、過去から未来への世代間のつながりとして、継承され、発展してきました。また、文化は、個人の内面より生まれるものから、地域性を背景としながらも人類共有の普遍的な文化（人権、平和など）となっているものなど世界的なひろがりのなかで互いに交流し、発展してきました。

県民一人ひとり、多様な文化に親しみ、交流する中で、仲間とともに、知的好奇心をもって学び、考えることで、豊かな心と感性を育むとともに、生きる喜びや三重の良さを知り、地域への愛着と誇りをもつようになります。

そして、県民一人ひとりが、個人として、社会の一員として、今、あるいは未来に向けて感性と創造性を発揮し、互いを尊重しあって行動することにより、次世代の人と文化を育み、豊かで暮らしやすく、魅力的で活力ある三重の姿を築くことを基本目標としてめざします。

(目標記載例)

A案 過去から未来、個人から世界、その結節点としての「地域の今」を創造的に生きる人と文化を育みます。

B案 “過去から未来へ - 世代のつながり - ” が、地域への愛着と誇りを育み、“個人から地域、そして世界へ - 文化のひろがり - ” が、人の知的好奇心をかき立て、感性を豊かにし、さらに新たな未来を創造する、そんな三重をつくります。

C案 次世代への継承と創造、地域から世界への広がりを大切にした「三重の人、文化を育む土壌づくり」

(2) 文化振興を進める視点

基本目標に向けた取組にあたっては、次の視点を明確にして取り組みます。

協働(パートナーシップ)の視点、誰もが(アクセス権の保障)の視点、

文化の多様性を認め合う視点、ユニバーサルの視点、文化における「グローバル」、「ローカル」の視点、評価の視点など

(3) 基本目標に向けて進める方向

4つの方向で幅広い取組を推進するためには、誰にでも開かれ、県民等の活動の場として、人と情報等が互いに影響し、高めあう相乗効果が生まれる図書館や博物館、公民館などの多様な文化振興拠点の活動が重要です。

また、誰もが文化や学習に関するニーズに応えてもらえる身近な拠点の整備も重要です。身近な文化振興拠点の補完的な役割として、小規模の拠点では取り組むことが難しい専門人材の育成、より専門性の高いシンクタンク、連携拠点としての役割をもつ広域の文化振興拠点の機能強化も重要です。

このような身近な拠点と広域・市町の拠点がうまく補完しあって、県民の学びや文化に対するニーズに応えていくことが三重の文化振興につながると考えられます。そこで、多様な機能を持ち、多様な主体が集まる文化振興拠点が、人と文化が育まれる「土壌づくり」に取り組む最適の場所と考えられます。

そこで、「文化振興拠点からひろげ、発展させる人と文化の土壌づくり」を重点方針として、具体的に次の点から推進します。

人と文化を育むための役割に応じた県内文化振興拠点の総合的充実強化

県内のさまざまな拠点が、互いに連携しながら、総合的に人と文化を育む環境が整うように、個々の拠点の充実強化、連携による機能向上などを進めます。進める方向としては、地域の公民館など県民の文化への身近なアクセスポイントとなる拠点としての役割、図書館、博物館など文化との接点・知的探求の場となる拠点としての役割など施設によって期待される役割にそった拠点の充実強化のあり方について明確にします。その上で、多様な主体に期待される役割などを前提にしながら、県の役割に応じた取組を明確にします。

県の「文化と知的探求の拠点」機能の充実強化

県が設置する「図書館」、「博物館」、「美術館」、「文化会館」、「生涯学習センター」は、広域の拠点として、県民一人ひとり等を支援するとと

もに、身近な拠点や市町の拠点を補完支援する役割を果たすと考えられます。

広域の「文化と知的探求の拠点」として、どのように機能を発揮すべきであるかを明確にして取組を推進します。

さまざまな施策分野と連動した総合的な展開

文化振興の基本的な考え方として、「さまざまな施策分野と連動した総合的な展開」を念頭においた取組を推進します。

文化振興の推進体制や支援策

まず、文化振興拠点から取組を拡げていくにあたって、その推進体制や支援策について明確にします。

(4) 県の役割

県は、基本目標に向けた取組において、次のような役割を果たしていくことが求められます。

県は、県が設置する文化振興拠点の充実強化を進めるとともに、県内の文化振興拠点が、単館でできないことを補完し、支援する役割を果たします。

また、三重の文化振興のめざす姿に向けて、県内の文化振興拠点の連携推進役として、各拠点の情報共有の場づくりや、各地で活動している人などをつなげる、交流・新たな展開に向けた協働の場を企画・提供するなどの役割を果たします。特に、中間支援を行うような団体、NPO、グループ、関係機関などと協力体制を築き、県民一人ひとりや文化団体の活動支援の体制、環境づくりに向けた取組を進めます。

第4章 重点方針

三重の文化振興の重点方針

文化振興拠点からひろげ発展させる人と文化を育む土壌づくり

(重点方針を推進する考え方)

多様な主体が、協力、協働しながら総合的に幅広い取組を推進していくことが必要です。

文化振興拠点の充実強化についても、施設の設置者が行うということだけでなく、「公共施設はみんなのためのもの」という考えのもと、多様な主体が関わり、発展させていく視点で取組を進めます。

三重の文化振興を文化振興拠点からひろげ、発展させていくために、以下の役割分担の考え方を基本とします。

■ 文化振興拠点間の役割分担の考え方

文化振興拠点には、県民にとって身近な拠点としての性格が強いものと、専門性が高く、文化との接点、知的探求を支援する拠点としての性格が強いものがあります。

公民館や地域の交流施設、あるいは、高齢者センターや児童館など特定の対象のための施設などが、身近な拠点としての役割が期待されます。（「身近な拠点」と呼びます。）身近な拠点は、誰にでも文化に接する権利を保障していくためのアクセスポイントとしての役割が重要です。

また、図書館、博物館、美術館、文化会館などは、専門性が高く、モノや情報という形で知が集積し、文化との接点であり、知的探求の拠点としての役割が期待されます。（「文化と知的探求の拠点」と呼びます。）

文化振興のためには、この身近な拠点と文化と知的探求の拠点の役割分担を基本にしつつ、個々の拠点がうまく連携しあい、県民の役に立てるような取組や体制づくりが必要になります。

① 身近な拠点に求められること

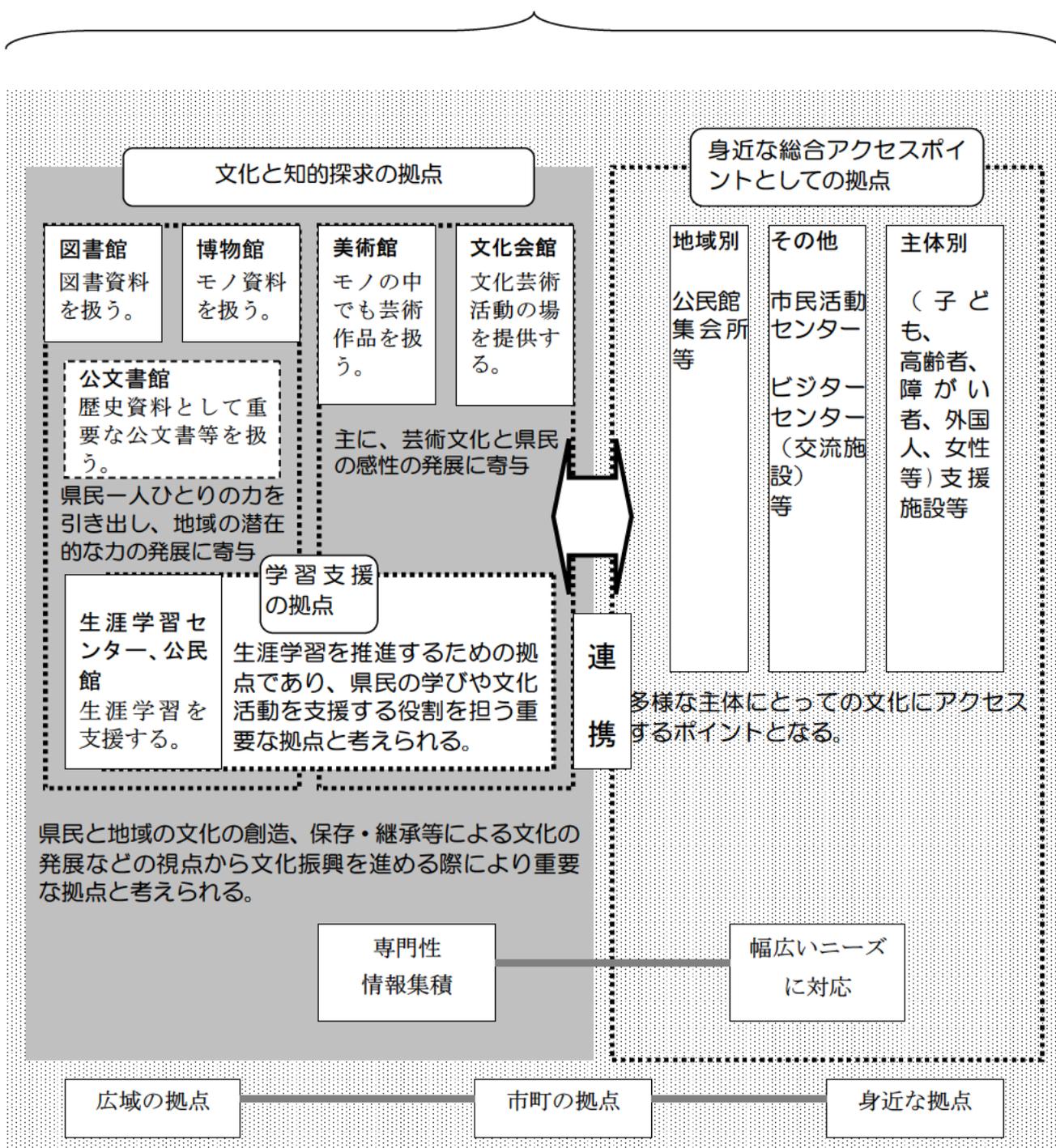
身近な拠点は、地域の住民が気軽に立ち寄り、個人やグループで、文化や知的探求の活動を行ったり、鑑賞したりできる場であることが求められ

ます。あわせて、新たな住民のニーズに直接応えられない場合に、他の拠点を案内し、つなげていくことが求められています。

②文化と知的探求の拠点に求められること

文化と知的探求の拠点は、当該施設の特徴に応じて、拠点機能を強化し、より高い県民ニーズに応えていくことが求められています。

☆「文化振興拠点」間の役割連携のイメージ
総合的に文化振興に寄与



取組1 県民一人ひとりの身近な「場」を拓き、つなぐ

誰もが文化に親しみ、学び、成長するなかで、自己実現していけるような身近な拠点の充実をはかるとともに、必要とする支援が受けられるような拠点間の連携のしくみづくりに取り組めます。

(考え方)

地域あるいは主体別に設置されている県民一人ひとりにとっての「身近な拠点」が、身近な文化に接し、活動する場となり、必要とする支援が得られるアクセスポイントにもなるような、連携のための取組を行います。

(展開方向)

今後記述します。

取組2 「文化と知的探求の拠点」づくり

「人と文化を育む土壌づくり」のための中核的な取組として、文化振興拠点のなかでも、県が設置し、特に重要と考えられる「図書館」、「博物館」など「文化と知的探求の拠点」の役割や特徴を踏まえた機能の充実強化、連携などを進めます。

(考え方)

文化振興拠点のなかでも、文化の保存、継承、創造、発展にとって特に文化と知的探求の拠点として重要な役割を果たすことが求められている

「図書館」、「博物館」、「文化会館」、「美術館」、「生涯学習センター」について、特徴に応じた役割を果たしながら、全体として効果的に機能が果たせるような施設間の連携を進めます。

特に、県域全体をカバーし、リードしていく役割をもつことが期待される県が設置する施設の文化振興拠点としての機能の充実強化を進めます。

なかでも、博物館については、施設の老朽化、狭小化、耐震化が課題となっており、地域に立脚した文化振興拠点として重要な役割を果たしていくために何が必要かを明確にしたうえで、充実強化をはかります。

文化振興拠点を機能させるために最も重要なこと

文化振興拠点を人と文化を育てる拠点として機能させるためには、まずは、利用者である県民が施設を使いこなす熱意と姿勢が必要です。そして、このような施設を使いこなそうとする県民を支援し、施設を機能させるための人材が必要になります。県民は、利用者であり、また、拠点や他の県民の活動を支援する人材として成長していきます。

また、拠点として機能させるための基本として、運営資金やしっかりとした運営体制、行政、関係団体・NPO、企業などの支援が必要です。

施設を機能させるためには、多様な人材が必要になります。

必要となる人材例

施設を機能させる上で必要な専門知識をもった人材（学芸員、司書など）

コーディネーター（活動や人をつなげる人材）

インタープリター（解説や案内を行うことで施設利用を助ける人材）

管理・運営する人

ボランティアなどの支援者 など

また、各拠点のもつ特徴を生かした機能連携を推進することで、より文化振興拠点が機能を働かせることができます。

（展開方向） 今後の拠点部会の検討をもとに記述します。

（１）「文化と知的探求の拠点」として各施設の充実強化を進めます。

拠点部会の検討内容を踏まえながら、各施設の特徴に応じた機能の強化を進めます。

また、これらの機能は、すべてを均等に備えるということではなく、拠点の目的、特徴等によってどの機能を優先するという考え方をすべきです。

(2)「文化と知的探求の拠点」としての全体最適を考えた拠点づくりに取り組みます。

「文化と知的探求の拠点」として、総合的、一体的に機能を果たすことができるよう、各施設の機能と連携の強化を進めます。

拠点を機能させる人材育成の考え方と実践

取組3 施策をつないで取り組む

一人ひとりの県民の学びを支援するとともに、地域の潜在的な力（ポテンシャル）を高めるための文化振興策を多様な施策と連携しながら総合的に進めます。

(考え方)

生涯学習施策や集客交流施策、景観施策、農業振興施策、環境施策などを文化振興策の一環として位置づけ、連携した取り組みを進めることができるようしくみづくりなどを行います。

詳細は、今後記述します。

(展開方向)

今後記述します。

取組4 県全体の文化振興を進めるしくみ、体制へのチャレンジ

(考え方)

今後記述します。(今後拠点部会で検討)

企業メセナ、プラットフォームなどについて検討

(展開方向)

今後記述します。